

令和2年度 事業報告

第1 事業の概要

令和2年度の事業運営に当たっては、年度当初より新型コロナウイルス感染症予防対策により、例年とは異なる推進体制のもと、農業経営の安定を図るため、NOSA I組織を挙げて継続加入者はもとより、未加入者への農業共済制度の周知、並びに収入保険制度の普及推進に全力で取り組んだ。更に、各事業の引受・損害評価の適正実施、効果的な損害防止事業の実施などに努めた。

その結果、引受関係では全体的には高齢化等による経営規模の縮小や廃業・収入保険への移行等もあり、家畜共済を除き減少したが、園芸施設共済については、関係機関と連携し生産部会等への集団加入推進・未加入者推進と継続加入者の完全引受に努めた結果、加入戸数は減少したが、共済金額では104.9%伸長した。一方、建物共済においては、東日本大震災以降、地震災害への備えとして、総合共済は増加したが火災共済は減少した。

全事業の総共済金額は1兆971億6,700万円余で前年度対比95.4%となった。なお、収入保険の引受については、新型コロナウイルス感染症予防対策により関係機関等の主催する会議等が中止されたが、全職員を挙げて戸別推進に取り組んだ結果、2年度目標の1,000経営体に対し1,075経営体の加入を得られた。

一方、被害関係では台風などの大きな被害はなかったが、凍霜害によるりんごとなしの被害、降ひょうによる麦と施設園芸用ハウスの被害、また、天候不順により麦と水稻に病害が発生した。全事業の支払共済金総額は11億1,900万円余で前年度に比べ被害の少ない年であった。また、収入保険の支払いについては、令和元年度加入件数の4割以上の経営体に対し、約3億2,351万円、一経営体当たり276万円の保険金が支払われた。

損害防止事業については、加入者へ要望調査等を実施しニーズの把握に努め、損害の未然防止に努めた。

業務収支については、運営経費の必要額確保に努めたが、国庫事務費負担金が5億21万円余と前年より約4,426万円余の減となり、収入計では15億6,574万円余となった。支出においては、業務の効率的運営に努めたこと、また、新型コロナウイルス感染症予防対策として、会議等の中止、及び、基礎組織役員への業務依頼を中止したこと等により、支出が減少したため、収入との差額を令和4年度より実施が予定されている農業保険システムウェブ化に備え事務機械化引当金に繰入し、収支無残の原則により総額で収支が一致している。

事業収支において農作物共済・果樹共済及び家畜診療所の各勘定において不足金が生じたが、畑作物共済を除く事業で剰余金が生じた。

第2 引受・損害評価の実績

(1) 農作物共済関係

(引 受)

項目		組合員数	引受面積	引受収量	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A)±(B)
区分								
水 稲	一筆方式	12,575	1,116,210.6	37,323,595	6,102,500,678	12,843,744	△ 2,118,952	10,724,792
	半相殺方式	508	14,058.3	569,057	99,531,845	173,691	△ 27,290	146,401
	全相殺方式	-	-	-	-	-	-	-
	品質方式	142	48,355.8	-	299,241,726	2,774,807	△ 1,510,373	1,264,434
	小計	13,225	1,178,624.7	37,892,652	6,501,274,249	15,792,242	△ 3,656,615	12,135,627
麦	令和2年産							
	一筆方式	395	322,090.1	8,961,905	908,859,822	8,605,685	6,271,254	14,876,939
	半相殺方式	-	-	-	-	-	-	-
	全相殺方式	-	-	-	-	-	-	-
	災害収入共済方式	253	274,642.8	-	1,472,773,747	33,305,327	13,950,194	47,255,521
	小計	648	596,732.9	8,961,905	2,381,633,569	41,911,012	20,221,448	62,132,460
	令和3年産							
	一筆方式	341	281,711.8	7,818,415	803,008,161	7,640,161	5,580,089	13,220,250
	半相殺方式	8	4,526.5	141,580	15,296,524	165,330	124,958	290,288
全相殺方式	-	-	-	-	-	-	-	
災害収入共済方式	202	220,799.7	-	1,189,577,636	26,065,744	11,066,434	37,132,178	
小計	551	507,038.0	7,959,995	2,007,882,321	33,871,235	16,771,481	50,642,716	

※麦 令和3年産については、決算時の引受内容を記入。

△: 納入保険料

○水 稲

- ・前年対比 引受組合員数:88.6%・引受面積:91.8%
- ・引受概況 令和2年産の引受組合員数は13,225人で、前年より1,699人の減少、引受面積は11,786haで前年より1,050haの減少となった。要因としては、任意加入となったことにより小規模作付農家の未加入や農家の高齢化等による作付中止、また収入保険移行により引受組合員数、引受面積ともに減少となった。引受方式別では、組合員数割合で一筆方式が全体の95.0%、半相殺方式が3.8%、品質方式が1.2%となった。近年の気象災害による品質低下被害を受け、加入要件を満たす農家等に対し水稲品質方式への移行を推進した。また、青色申告を行っている農家等に対しては収入保険制度を含めた効果的な推進を行った。

○麦

- ・前年対比 引受組合員数:89.6%・引受面積:91.5%
- ・引受概況 令和2年産の引受実組合員数は648人で、前年より75人の減少、引受面積は5,967haで前年より553haの減少となった。要因としては、任意加入となったことによる未加入や農家の高齢化等による作付中止、また収入保険移行により引受組合員数、引受面積ともに減少となった。引受方式別では、組合員数割合で一筆方式が全体の61.0%、災害収入共済方式が39.0%となった。収穫期の気象災害による品質低下被害の発生が多いことから、加入要件を満たす農家等に対し災害収入共済方式への移行を推進した。また、青色申告を行っている農家等に対しては収入保険制度を含めた効果的な推進を行った。

(被 害)

区分		項目		共済減収量	共済金	$\frac{\text{共済金}}{\text{共済金額}}$	備 考
		被害組合員数					
水 稲	一 筆 方 式	人	kg		円	%	
	半 相 殺 方 式	255	64,384		11,081,211	0.2	
	全 相 殺 方 式	3	1,154		201,950	0.2	
	品 質 方 式	-	-		-	-	
	小 計	64	-		11,705,885	3.9	
麦	一 筆 方 式	322	65,538		22,989,046	0.4	
	半 相 殺 方 式	116	152,503		15,967,240	1.8	
	全 相 殺 方 式	-	-		-	-	
	災害収入共済方式	-	-		-	-	
	小 計	102	-		46,630,229	3.2	
	小 計	218	152,503		62,597,469	2.6	

○水 稲 ・被害概況 長梅雨の影響によって6月中旬から7月下旬まで平年より降雨量が多く湿度も高く、平均気温が25℃前後で推移し、いもち病感染の好適条件となったことから、感染が助長され普通期栽培でいもち病が発生した。また、8月中旬の高温により若干回復傾向にあったが9月上中旬の多雨によって、感染拡大した。また、7月上旬から下旬の日照不足により、生育が停滞し、移植が遅かったほ場ほど、茎数、穂数が少なくなり、不稔粒及び未熟粒や死米の混入が多く、収量及び品質とも平年より劣った。
 なお、作柄については、12月10日公表の農林水産統計で作況指数100のやや並みとなった。

○麦 ・被害概況 11月下旬の降雨により東毛地域を中心に大幅に遅れが生じ、播種済みのほ場では発芽不良が発生した。また、大雨が頻発したため土壌湿潤害の発生やひょう害によって収穫量が低下したほか、なまぐさ黒穂病の発症によって、収穫を断念したほ場もあった。
 なお、県技術支援課発表の「令和2年産小麦の作況と麦類の今後の技術対策(6月20日現在)」によると、県平均の作柄概況は「並～やや不良」となった。

(支 払)

区分	項目	支払月日	実支払共済金	共 済 金 支 払 財 源					実支払共済金 共 済 金
				保険金	手持掛金 充当額	法定積立金 充当額	特別積立金 充当額	その他	
		令和年月日	円	円	円	円	円	円	%
水 稲		02.12.24～ 03.3.22	22,989,046	749,553	12,135,627	10,103,866	0	0	100.0
麦		02.9.23～ 02.12.24	62,597,469	0	62,132,460	465,009	0	0	100.0

(損害防止)

水稲・麦の病虫害防除等の損害防止事業に17,976,988円を使用し、各支所において関係機関と連携し、防除薬剤等を加入者に配布した。
 また、伊勢崎支所においては、水稲種もみ温湯消毒機の貸し出しを行い、水稲種もみの温湯消毒を行った。

(2)家畜共済関係

(引 受)

○ 死亡廃用共済

区分	項目		引受頭数	引受頭数 事業計画頭数	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A)±(B)
	有資格頭数	事業計画頭数						
	頭	頭	頭	%	千円	円	円	円
搾乳牛	34,150	26,357	24,718	93.8	5,997,216	169,263,378	169,198,677	338,462,055
育成乳牛 子牛等		11,203	10,803	96.4	2,496,609	12,016,892	11,993,995	24,010,887
繁殖雌牛	55,205	4,042	3,614	89.4	1,025,641	5,015,757	5,003,968	10,019,725
育成肥育牛 子牛等		21,545	19,038	88.4	6,003,120	25,968,837	25,902,084	51,870,921
種豚	56,000	10,303	7,712	74.9	439,005	114,881	71,180	186,061
合計	145,355	73,450	68,594	93.4	15,961,591	212,379,745	212,169,904	424,549,649

・前年対比 頭数 101.0% 共済金額 104.6%

・引受概況 頭数及び共済金額については、搾乳牛・育成乳牛の区分で減少したが、繁殖用雌牛、育成肥育牛、また、種豚・肉豚については、増加し合計では、引受増加となった。

○ 疾病傷害共済

区分	項目		引受頭数	引受頭数 事業計画頭数	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A)±(B)
	有資格頭数	事業計画頭数						
	頭	頭	頭	%	千円	円	円	円
乳用牛	34,040	24,405	23,178	95.0	363,268	122,286,428	122,283,000	244,569,428
子牛等		426						
肉用牛	55,000	6,472	5,820	89.9	54,067	11,077,629	11,077,029	22,154,658
子牛等		697						
種豚	56,000	2,244	705	31.4	412	42,723	28,475	71,198
合計	145,040	33,121	30,826	93.1	417,747	133,406,780	133,388,504	266,795,284

・前年対比 頭数 100.4% 共済金額 94.3%

・引受概況 頭数・共済金額ともに乳用牛・種豚で減少し、肉用牛で増加した。合計では、頭数は昨年と同等であったものの共済金額は減少した。

○ 特定包括肉豚共済

区分	項目	有資格頭数	事業計画頭数	引受頭数	引受頭数 事業計画頭数	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A)±(B)
		頭	頭	頭	%	千円	円	円	円
特定包括肉豚		554,000	44,507	54,616	122.7	462,286	5,609,252	3,733,131	9,342,383

・前年対比 頭数 122.7% 共済金額 134.0%
 ・引受概況 頭数・共済金額ともに増加した。

(事 故)

○ 死亡廃用共済

区分	項目	死亡頭数	廃用頭数	総頭数	支払共済金
		頭	頭	頭	円
搾乳牛		1,084	445	1,529	271,181,106
育成乳牛		264	10	274	15,921,184
	子牛等	216			
繁殖雌牛		34	16	50	8,140,482
育成肥育牛		592	10	602	52,782,546
	子牛等	546	10		
種豚		0	0	0	0
合計		1,974	481	2,455	348,025,318

事故概況

育成乳牛、繁殖用雌牛、育成肥育牛で、頭数、支払共済金ともに減少し、支払共済金合計で、前年対比2500万円余の減額となり、93.2%であった。

○ 疾病傷害共済

区分	項目	件数	支払共済金
		件	円
乳用牛		20,448	277,227,506
	子牛等	653	
肉用牛		2,841	35,548,974
	子牛等	1,560	
種豚		11	54,132
合計		23,300	312,830,612

○ 特定包括肉豚共済

区分	項目	死亡頭数	支払共済金
		頭	円
特定包括肉豚		748	4,451,762

事故概況 頭数、支払共済金ともに減少し、支払共済金は前年度対比30万円余の減額で、93.7%であった。

事故概況 各共済区分で件数、支払共済金ともに増額し、支払共済金合計で、前年対比5000万円余の増額となり、119.1%であった。

(損害防止)

実施種目		対象頭数又は回数	経費概算	摘要
特定損害防止		頭 292	円 1,515,930	乳牛
一般損害防止	予防衛生措置	109,726	5,921,183	乳牛41,337頭、肉牛19,885頭、豚51,504頭
	講習会、講話会	-	-	

- ・特定損害防止事業(国補助事業)については、診療所において周産期疾患を中心に、乳房炎、運動器病、繁殖障害を対象に実施した。
- ・一般損害防止事業については、予防衛生措置のための薬剤等を配布した。

(診療所)

診療所名	職員数	※事業区域		診療件数		損害防止事業			摘要
		有資格頭数	引受頭数	共済事故	事故外	事故低減	特損	経費概算	
中 央	人 2	頭	頭	頭 0	頭 0	頭(回) 0	頭(回) 0	円 0	
中 部 地 区	6	228,687	32,866	1,495	692	0	150	782,010	
北 部 地 区	5	10,817	8,791	2,062	487	0	142	733,920	

- ・事業区域加入頭数は、前年と比較して中部地区・北部地区ともに減少した。診療件数は、中部地区家畜診療所管内・北部地区家畜診療所管内ともに増加した。

※主な事業区域 中部地区……前橋市・渋川市・榛東村・吉岡町
北部地区……沼田市・片品村・川場村・みなかみ町・昭和村

(3) 果樹共済関係

(引 受)

年 産	項目		組合員数	引受面積	標準収穫量	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A)±(B)
	区分								
令和2年産	りんご	半相殺 減収総合一般方式	人	a	kg	円	円	円	円
		樹園地単位 減収総合一般方式	-	-	-	-	-	-	-
		半相殺 減収総合短縮方式	1	26.5	4,676	1,660,000	33,228	△ 1,200	32,028
		樹園地単位 減収総合短縮方式	-	-	-	-	-	-	-
		半相殺 特定危険方式	83	3,044.2	696,724	279,640,000	3,831,199	224,972	4,056,171
		樹園地単位 特定危険方式	1	65.3	13,465	4,250,000	62,039	16,688	78,727
		小 計	85	3,136.0	714,865	285,550,000	3,926,466	240,460	4,166,926
	ぶどう	-	-	-	-	-	-	-	-
	なし	半相殺 減収総合一般方式	-	-	-	-	-	-	-
		樹園地単位 減収総合一般方式	-	-	-	-	-	-	-
		半相殺 減収総合短縮方式	3	76.8	15,849	5,240,000	100,888	△ 46,959	53,929
		樹園地単位 減収総合短縮方式	-	-	-	-	-	-	-
		半相殺 特定危険方式	18	700.4	154,152	55,070,000	716,922	△ 302,346	414,576
		樹園地単位 特定危険方式	-	-	-	-	-	-	-
		小 計	21	777.2	170,001	60,310,000	817,810	△ 349,305	468,505
	合 計	106	3,913.2	884,866	345,860,000	4,744,276	△ 108,845	4,635,431	

△: 納入保険料

- りんご
 - ・前年対比 引受組合員数:76.6%・引受面積:73.1%
 - ・引受概況 収入保険移行及び高齢化による廃園により減少した。
- なし
 - ・前年対比 引受組合員数:77.8%・引受面積:72.4%
 - ・引受概況 収入保険移行及び高齢化による廃園により減少した。

(被害)

項目		被害組合員数	共済減収量	共済金	共済金 共済金額	備考
区分						
りんご	半相殺 減収総合一般方式	-	kg -	円 -	% -	
	樹園地単位 減収総合一般方式	-	-	-	-	
	半相殺 減収総合短縮方式	1	1,974	289,100	17.4	
	樹園地単位 減収総合短縮方式	-	-	-	-	
	半相殺 特定危険方式	1	1,974	100,500	0.0	
	樹園地単位 特定危険方式	-	-	-	-	
	小計	2	3,948	389,600	0.1	
ぶどう	-	-	-	-	-	
なし	半相殺 減収総合一般方式	-	-	-	-	
	樹園地単位 減収総合一般方式	-	-	-	-	
	半相殺 減収総合短縮方式	-	-	-	-	
	樹園地単位 減収総合短縮方式	-	-	-	-	
	半相殺 特定危険方式	7	35,831	6,435,200	11.7	
	樹園地単位 特定危険方式	-	-	-	-	
	小計	7	35,831	6,435,200	10.7	
合計	9	39,779	6,824,800	2.0		

○りんご ・被害概況

・6月の降ひょうにより損傷する被害が発生した。

・6月下旬から7月中旬の多雨により適宜防除ができず、病害(輪紋病・炭疽病)が発生し、果実が腐敗する被害が発生した。

○なし ・被害概況

・4月の降霜により花芽が凍死する被害が発生した。

(支 払)

区分	項目	支払月日	実支払共済金	共 済 金 支 払 財 源					実支払共済金 共 済 金
				保険金	手持掛金 充 当 額	法定積立金 充 当 額	特別積立金 充 当 額	その他	
りんご	半相殺 減収総合一般方式	令和 年 月 日	円	円	円	円	円	円	%
	樹園地単位 減収総合一般方式	-	-	-	-	-	-	-	-
	半相殺 減収総合短縮方式	3.3.3	289,100	-	-	-	-	-	-
	樹園地単位 減収総合短縮方式	-	-	-	-	-	-	-	-
	半相殺 特定危険方式	3.3.3	100,500	-	-	-	-	-	-
	樹園地単位 特定危険方式	-	-	-	-	-	-	-	-
	小 計	3.3.3	389,600	-	-	-	-	-	-
ぶ	ど	う	-	-	-	-	-	-	-
なし	半相殺 減収総合一般方式	-	-	-	-	-	-	-	-
	樹園地単位 減収総合一般方式	-	-	-	-	-	-	-	-
	半相殺 減収総合短縮方式	-	-	-	-	-	-	-	-
	樹園地単位 減収総合短縮方式	-	-	-	-	-	-	-	-
	半相殺 特定危険方式	3.2.5	6,435,200	-	-	-	-	-	-
	樹園地単位 特定危険方式	-	-	-	-	-	-	-	-
	小 計	3.2.5	6,435,200	-	-	-	-	-	-
合 計	3.2.5 3.3.3	6,824,800	2,281,605	4,543,195	0	0	0	100.0	

(損害防止)

りんご、なしの病虫害防除を目的として、771,817円を使用し、防除薬剤等を加入者に配布する損害防止事業を行った。
また、果樹園地を対象に、6点の土壌診断(経費4,620円)を行った。

(参考:引受)

年 産	項目		組合員数	引受面積	標準収穫量	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A)±(B)
	区分								
令和3 年産	りんご	半相殺 減収総合一般方式	-	a	kg	円	円	円	円
		樹園地単位 減収総合一般方式	-	-	-	-	-	-	-
		半相殺 減収総合短縮方式	1	25.0	3,870	1,360,000	31,288	△ 1,137	30,151
		樹園地単位 減収総合短縮方式	-	-	-	-	-	-	-
		半相殺 特定危険方式	55	2,117.5	442,778	176,000,000	2,268,692	129,294	2,397,986
		樹園地単位 特定危険方式	-	-	-	-	-	-	-
		小 計	56	2,142.5	446,648	177,360,000	2,299,980	128,157	2,428,137
	ぶどう	-	-	-	-	-	-	-	-
	なし	半相殺 減収総合一般方式	-	-	-	-	-	-	-
		樹園地単位 減収総合一般方式	-	-	-	-	-	-	-
		半相殺 減収総合短縮方式	1	31.4	6,356	2,220,000	25,156	△ 11,712	13,444
		樹園地単位 減収総合短縮方式	-	-	-	-	-	-	-
		半相殺 特定危険方式	15	592.0	130,751	49,910,000	669,762	△ 282,518	387,244
		樹園地単位 特定危険方式	-	-	-	-	-	-	-
		小 計	16	623.4	137,107	52,130,000	694,918	△ 294,230	400,688
	合 計	72	2,765.9	583,755	229,490,000	2,994,898	△ 166,073	2,828,825	

△:納入保険料

(4) 畑作物共済関係

(引 受)

区分		項目	組合員数	引受面積(大豆) 引受箱数(蚕繭)	引受収量	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A)±(B)
			人	a	kg	円	円	円	円
大豆	一筆方式		17	5,621.5	52,263	6,103,912	30,775		
	半相殺方式		-	-	-	-	-		
	全相殺方式		4	2,411.6	31,711	4,439,540	94,802		
	小計	実	21	8,033.1	83,974	10,543,452	125,577		
蚕繭	春蚕繭		61	251.50	7,233	17,474,020	27,336		
	初秋蚕繭		35	175.29	4,402	10,471,000	13,442		
	晩秋蚕繭		53	248.10	6,235	14,828,800	46,146		
	小計	延実	149 63	674.89	17,870	42,773,820	86,924		
合計						53,317,272	212,501	72,971	285,472

大豆

△: 納入保険料

○前年対比

引受組合員数:91.3%・引受面積:82.2%

○引受概況

引受方式別では、耕地単位に共済金が算出される一筆方式での加入が多く、面積比率で70.0%を占めている。

蚕繭

○春蚕繭

・前年対比 引受組合員数:83.6%・引受箱数:77.5%

○初秋蚕繭

・前年対比 引受組合員数:89.7%・引受箱数:84.5%

○晩秋蚕繭

・前年対比 引受組合員数:79.1%・引受箱数:70.8%

・引受概況 全蚕繭とも高齢化等により減少傾向にある。

(被害)

区分		項目	被害組合員数	共済減収量	共済金	$\frac{\text{共済金}}{\text{共済金額}}$	備考
大豆	一筆方式		人 0	kg 0	円 0	% 0.0	
	半相殺方式		-	-	-	-	
	全相殺方式		1	45	6,300	0.1	
	小計	実	1	45	6,300	0.1	
蚕繭	春蚕繭		1	22	53,460	0.3	
	初秋蚕繭		0	0	0	0.0	
	晩秋蚕繭		5	177	415,710	2.8	
	小計	延実	6 6	199	469,170	1.1	
合計					475,470	0.9	

大豆

○被害概況

6月～7月の度重なる降雨と9月上旬のまとまった降雨により生育不良の被害を受けた。

蚕繭

○春蚕繭

・被害概況 生理病の被害が発生した。

○初秋蚕繭

・被害概況 被害なし

○晩秋蚕繭

・被害概況 細菌病、生理病、膿病の被害が発生した。

(支 払)

区分	項目	支払月日	実支払共済金	共 済 金 支 払 財 源					実支払共済金 共 済 金
				保険金	手持掛金 充 当 額	法定積立金 充 当 額	特別積立金 充 当 額	その他	
		令和 年 月 日	円	円	円	円	円	円	%
大豆	一筆方式	-	-	-	-	-	-	-	-
	半相殺方式	-	-	-	-	-	-	-	-
	全相殺方式	3.3.5	6,300	-	-	-	-	-	-
	小 計		6,300	-	-	-	-	-	-
蚕 繭	春蚕繭	2.8.12	53,460	-	-	-	-	-	-
	初秋蚕繭	-	-	-	-	-	-	-	-
	晩秋蚕繭	2.12.10	415,710	-	-	-	-	-	-
	小 計		469,170	-	-	-	-	-	-
合 計		2.8.12~ 3.3.5	475,470	0	285,472	189,998	0	0	100.0

(損害防止)

大豆

病虫害防除を目的として、総額257,579円を使用し、防除薬剤等を加入者に対し配布する損害防止事業を行った。

蚕 繭

養蚕経営の安定を目的に病虫害防除に367,066円を使用して、損害防止事業を行った。

(6) 園芸施設共済関係

(引 受)

施設区分 \ 項目	組合員数	引受棟数	設置面積	共済価額	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A)±(B)
	人	棟	a	千円	千円	円	円	円
ガラス I 類	-	-	-	-	-	-	-	-
〃 II 類	148	187	2,469.2	3,164,168	2,490,309	6,124,141	2,355,615	8,479,756
プラスチックハウス I 類	1	1	1.0	260	208	624	435	1,059
〃 II 類	1,972	11,177	23,856.4	4,642,412	3,795,328	47,398,321	△ 9,552,903	37,845,418
〃 III 類	450	578	6,799.0	3,112,273	2,454,578	16,613,844	2,810,746	19,424,590
〃 IV 類 甲	309	447	4,531.4	3,376,851	2,665,668	11,085,291	2,296,313	13,381,604
〃 IV 類 乙	226	294	3,221.0	2,353,112	1,886,744	5,007,728	928,477	5,936,205
〃 V 類	65	74	810.9	638,346	500,116	1,451,911	230,197	1,682,108
〃 VI 類	243	4,398	10,592.4	1,315,194	1,050,330	7,942,393	3,144,214	11,086,607
〃 VII 類	47	71	1,487.7	59,991	47,681	275,756	34,002	309,758
合 計	3,461	17,227	53,769.0	18,662,611	14,890,967	95,900,009	2,247,096	98,147,105

※共済価額及び共済金額は四捨五入により合計値と一致しない。

△:納入保険料

○前年対比 引受組合員数:99.5%・引受棟数:101.8%・引受面積:102.4%

○引受概況 有資格者名簿を整備し、戸別訪問による引受推進を行った。高齢化による廃業や規模縮小、一般損害保険への切替により前年と比べると組合員数はやや減少したが、引受棟数・引受面積は増加した。

(被害)

施設区分	項目	被害		損害の額	共 済 金						共 済 金 共 済 金 額	
		組合員数	棟 数		特 定 園芸施設	附帯施設	施設内 農作物	撤去 費用	特定園芸施 設復旧費用	附帯施設 復旧費用		合計
ガラス I 類		人	棟	円	円	円	円	円	円	円	円	%
ガラス II 類		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
プラスチックハウス I 類		6	6	752,584	47,936	260,463	191,491	0	0	25,520	525,410	0.0
プラスチックハウス II 類		被害なし										
プラスチックハウス III 類		73	130	5,723,400	3,442,500	0	998,034	0	0	0	4,440,534	0.1
プラスチックハウス IV 類甲		21	25	4,429,127	554,255	179,787	2,716,150	0	0	30,303	3,480,495	0.1
プラスチックハウス IV 類乙		10	10	1,828,790	414,203	96,359	952,368	0	0	0	1,462,930	0.1
プラスチックハウス V 類		11	15	4,098,600	85,340	39,680	2,942,421	0	0	0	3,067,441	0.2
プラスチックハウス VI 類		3	3	2,367,388	1,893,910	0	0	0	0	0	1,893,910	0.4
プラスチックハウス VII 類		7	51	2,391,351	1,531,873	0	190,658	0	0	0	1,722,531	0.2
プラスチックハウス VIII 類		1	1	47,291	37,785	0	0	0	0	0	37,785	0.1
合 計		132	241	21,638,531	8,007,802	576,289	7,991,122	0	0	55,823	16,631,036	0.1

○被害概況 6月のひょう害により、伊勢崎支所および沼田支所管内において被覆材や施設内農作物が被害を受けた。ひょう害による被害72棟に対し共済金4,221,392円の支払いとなった。
また、突発的な強風により全域において被覆材に被害が発生した。病虫害では、主に東部のキュウリにおいてつる枯れ病や黄化えそ病等が発生した。

(支払)

実支払共済金	共 済 金 支 払 財 源					実支払共済金 共 済 金
	保険金	手持掛金 充当額	法定積立金 充当額	特別積立金 充当額	その他	
円	円	円	円	円	円	%
16,631,036	611,953	16,019,083	0	0	0	100.0

(損害防止)

損害の未然防止と発生した被害の拡大を防ぐため、4,030,344円の損害防止事業費で粘着補虫シートやビニール補修用テープ等の損害防止用品を加入者に配布した。

(7) 建物共済関係

(引受)
農家建物

区分	項目	引受棟数	共済金額	共済掛金		1棟当たり 平均共済金額	保険料	保険手数料
				純共済掛金	賦課金			
		棟	千円	円	円	円	円	円
総合共済		11,894	125,771,850	190,388,123	86,158,047	10,574,395	140,867,202	30,392,778
収容農産物Aタイプ								
収容農産物Bタイプ		(1)	3,000	6,300	2,700	3,000,000	2,700	688
火災共済		80,924	930,377,550	440,145,661	359,378,323	11,496,930	239,336,675	96,787,129
合計		92,818	1,056,152,400	630,540,084	445,539,070	11,378,746	380,206,577	127,180,595

※保険料は、令和元年度全国連保険料未経過分
11,112,616円を含む

○前年対比
○引受概況

・引受棟数:94.4%・共済金額:95.1%
・総合共済は、自然災害が多発していることで火災共済から切り替える加入者や新規の加入者があり、棟数で前年対比105.6%と増加する一方で、火災共済は、同対比92.9%で減少している。

(事故)
農家建物

区分	項目	事故棟数	共済金額 (イ)	支払共済金(ロ)		保険金	被害率 (ロ)/(イ)	備考
				火災等	風水害等			
		棟	千円	円	円	円	%	
総合共済		163	1,966,700	15,772,700	33,780,385	14,865,852	2.5	
収容農産物		-	-	-	-	-	-	
火災共済		266	3,841,500	291,440,583	-	87,432,053	7.6	
合計		429	5,808,200	307,213,283	33,780,385	102,297,905	5.9	

○被害概況

次頁の原因別事故発生状況の支払共済金は、前年対比で火災が98.0%、拡張担保が97.1%、自然災害が67.8%で、全体で93.8%と減少した。

(原因別事故発生状況)

農家建物

事故原因別		事故棟数	共済金額 (イ) 千円	支払共済金 (ロ) 円	保険金 円	被害率 (ロ)/(イ) %	備 考
火災	類焼	17	102,600	41,207,337	12,362,191	40.2	
	電気配線等の漏電	5	100,500	25,086,824	7,526,045	25.0	
	ストーブ関係の火	4	98,300	76,458,844	22,937,649	77.8	
	たき火の火	3	30,400	18,415,355	5,524,605	60.6	
	その他	19	184,200	108,193,236	32,457,960	58.7	
	火災計	48	516,000	269,361,596	80,808,450	52.2	
拡張担保	落雷	211	2,820,600	27,075,001	8,122,407	1.0	
	物体の落下・飛来等	21	347,600	696,205	208,853	0.2	
	盗難によるき損・汚損	18	250,600	824,625	247,383	0.3	
	車両の飛び込み等	17	219,500	6,180,483	1,854,143	2.8	
	その他	24	387,600	3,075,373	922,605	0.8	
	拡張担保計	291	4,025,900	37,851,687	11,355,391	0.9	
自然災害	114	1,266,300	33,780,385	10,134,064	2.7		
収容農産物	0	0	0	0			
合計	453	5,808,200	340,993,668	102,297,905	5.9		

(8) 農業経営収入保険

(引受・支払状況)

全国目標10万 経営体に対する 組合目標	令和2年度目標戸数	令和2年度加入戸数			令和2年度支払保険金(令和元年加入分)		
		個人	法人	計	加入戸数	支払戸数	支払額
戸 2,400	戸 1,000	戸 1,019	戸 56	戸 1,075	戸 275	戸 117	円 323,511,025

(引受)

全国10万経営体目標対比 44.8%
令和2年度目標対比 107.5%

(支払関係)

令和元年夏から秋にかけての相次いだ台風、豪雨により農作物に被害が発生。
市場動向では、暖冬傾向により、野菜類の安値が継続。
このほか、病気、けがでの収入減少が要因。